

ストーリー付きピンチヒロイン3DCG集

神代の戦士 2 体験版



R-18G

ざこきやら堂

一章





(ふりほどけない…邪竜の影響で…強化されているのね…)



「くっ！」

通常なら、難なく倒すであろう相手

(……先ほどの娘は？ 逃げていればいいけれど)



「うああっ！」

弱い者苛めを楽しむように、痛めたか細い腕を強く握りしめる
そんな時、思わぬ場所から……



「こらぁー！ 放しなさー！ーい！」

(なっ！？)

娘の声がした



「ふっ、無視されるのは、なれているのよ！ 私は、今はこんな姿をしているけれど……」

娘が叫んでいる途中…



「本当は、とてつもなく強いのおおおおおおおお！？」
魔物の足が上昇し、身体が軽々と持ち上げられる



(あ、やべっ、作戦間違えた)

娘は勘違いをしていた

「やだ、怒らせた？ 私も言い過ぎ…ひいーーーーー！」



「え？ えええええー—————」

魔物が上昇した理由は……



「……………はあ……………」

神代の戦士による、渾身の蹴り上げであった

「……………ふう……………」



(……座り込んだじゃった……大丈夫かな……)

娘は、神代の戦士に近寄る

「ええと…………ふっ、身をもって、奴の気を引いた私のおかげね」



「礼ならいいわよ、なんだったら、その怪我も…」

「なぜ邪魔をしたの！？ あんな無茶、なんの役にもたたないわ！！」

「ひっ！？ ……そんな言い方……私はただ……」



「…………ただ…………怒らなくても…」

「あなたが生贄になるのを、阻止しているのよ！　早く行って！」

「……わ、わかったわよ……」



一見傲慢そうな娘は、素直に神代の戦士に従う
(……反発される時のことを、考えていたけれど…)
聖騎士団が用意した転送魔法陣に、向かっていった



(一瞬、魔物の力が弱まった……もしかして彼女の力？)
(それが、生贄として選ばれた理由かもしれない…)



逃げてきた生贄の娘達から、彼女に助けられたことを聞いていた
(……どなって……ごめんね……)

邪気があふれ、魔法陣がひとつ…ふたつ……次々と…出現し……



(…わたしの回復のために、この場に残りそうだったから……)
魔物が出現する



(……今は、依頼の達成だけを考えるのよ)
神代の戦士は、次の闘いへと集中を高める
だが……



「うああ！！」

その鎧は、古代神の力が宿っていると言われている



「っー！　ぐっ！」

強固であり、自動回復も備わっている、最優の鎧



(……怖がっていたのに……魔物の足に…しがみついていた……)

だが、無数の強敵相手では、決して無敵ではない鎧を身にまといながら…



(……ごめんね……無事でいて……)

伝えられなかった言葉……心の中で謝罪し、気絶した戦士は、撈られ
続けられる

一章 完

二章





『治療後の身体に無理をさせて、すまないね』
(頭に直接語りかかてくる…念話ね…邪竜復活を企む一派の…)
「うぐっ！！？」



鈍い音が響く
『しかし、君もいけないんだよ』



鈍い音が響く
『大切な客人を、連れ去ってしまうんだから』



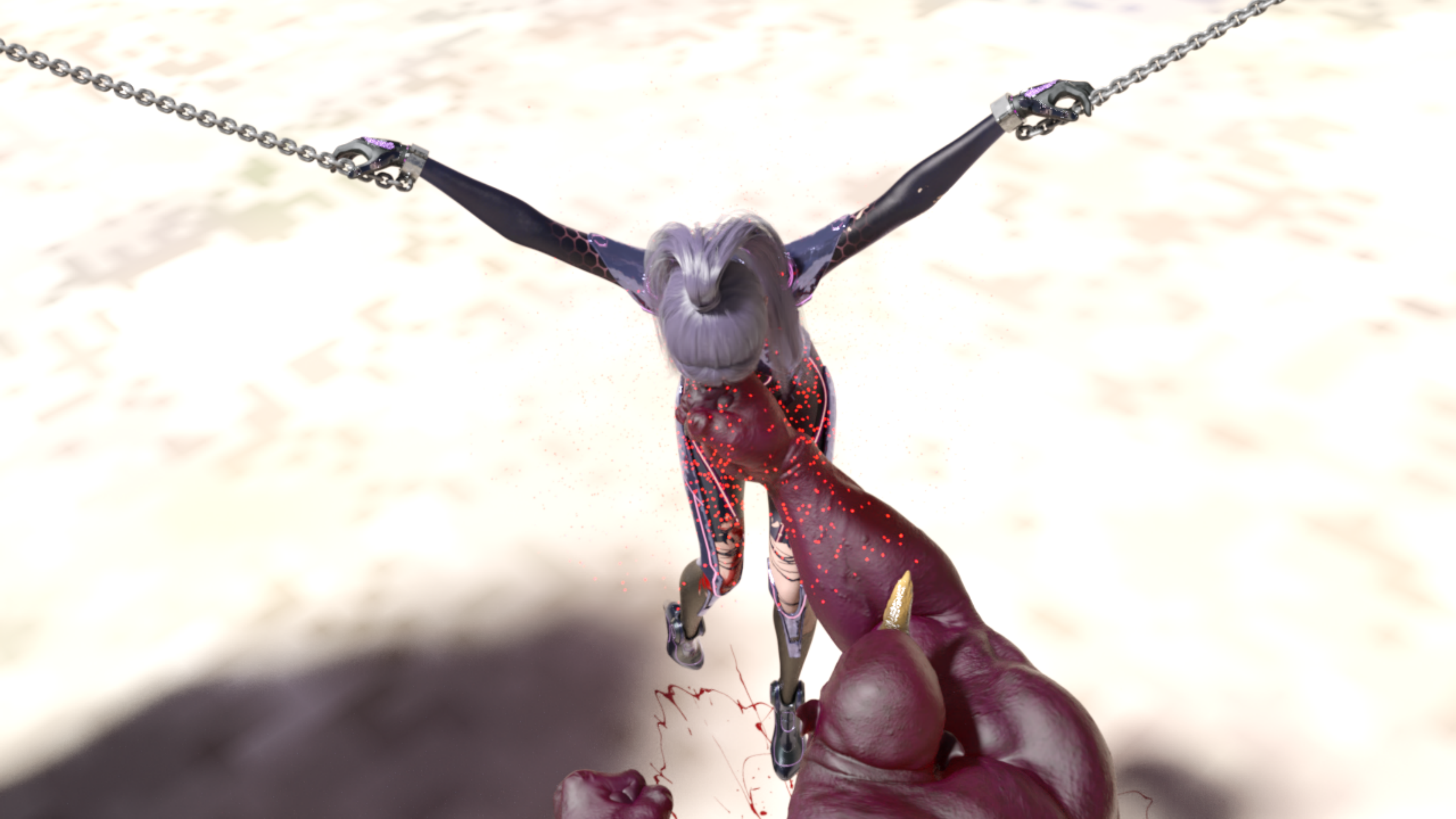
鈍い音が響く
『彼女たちは、どこにいるんだい？』



鈍い音が響く

「……っ……す……」

『ん？　喋る気になったかな』



「……っ…姿を見せないなんて……あぐっ！！」

鈍い音が響く

「……ずいぶん…………臆病ね…………っ！！」



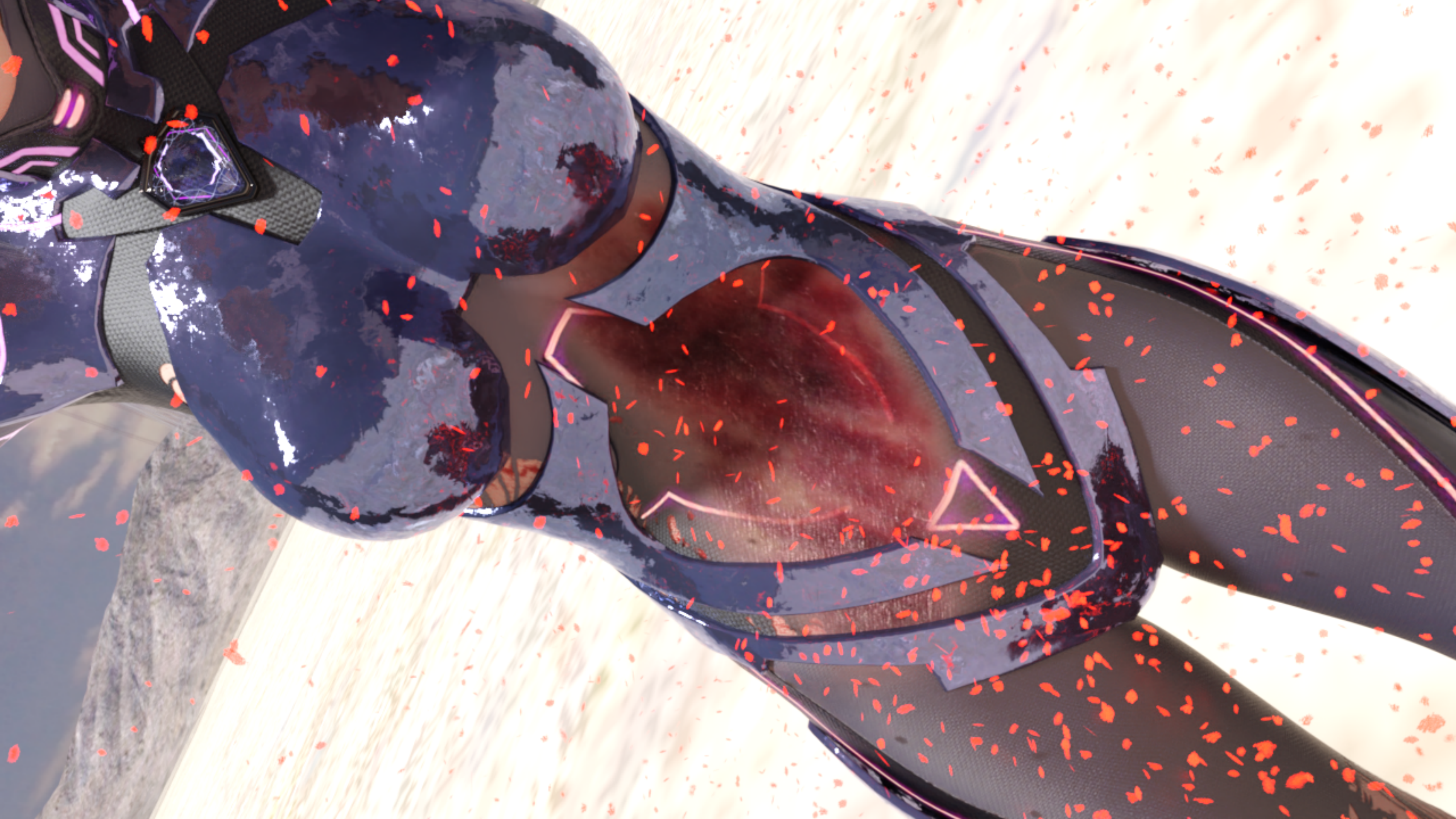
神代の戦士は、つかの間の休息時に、必死で息を整える
「……はぁ…はぁ……」
魔物は新たな命令を待っていた



「……あ…はあ……」

神代の戦士は、必死で息を整える

『私とて直接会いたいのだけど、君は危険だ』



「……ふう…はっ…っ…」

鎧から、火花が散り続ける

『だから、もう少し準備をさせてもらう。さて……』



『何度も言うが、協力すれば、大事な仲間の元に、帰れるよ?』

「……………」

『逃げたメス達…失礼、口が悪すぎた。よく知らない生贄の娘達は』



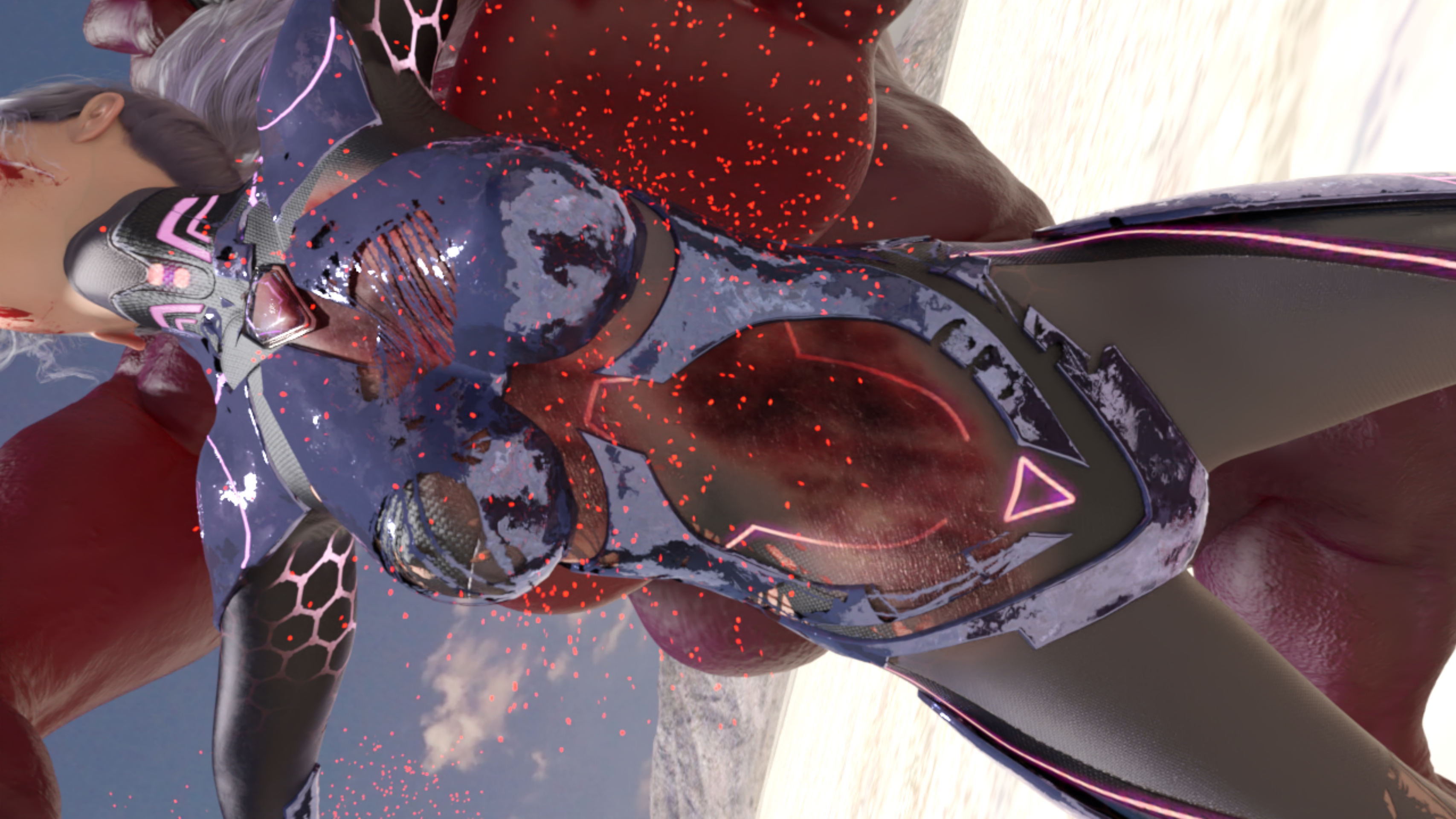
『君のこれからの待遇より、価値があるのかい？』

頭によぎったのは、男の誘惑と……無謀にも魔物の足に飛びついた娘
「長話は、終わり？」



「あぐっ！！」

魔物の一体は、足を押さえる係となり……



「がはっ！！」

もう一体は、神代の戦士の背後を強打し続ける



『声を聴くのも嫌だろうけど、我慢してくれ、私はね』
(……ああ……)



『君達を評価しているんだよ。聖騎士団の所属する神殿よりずっとね』
(……壊れて……いく……)



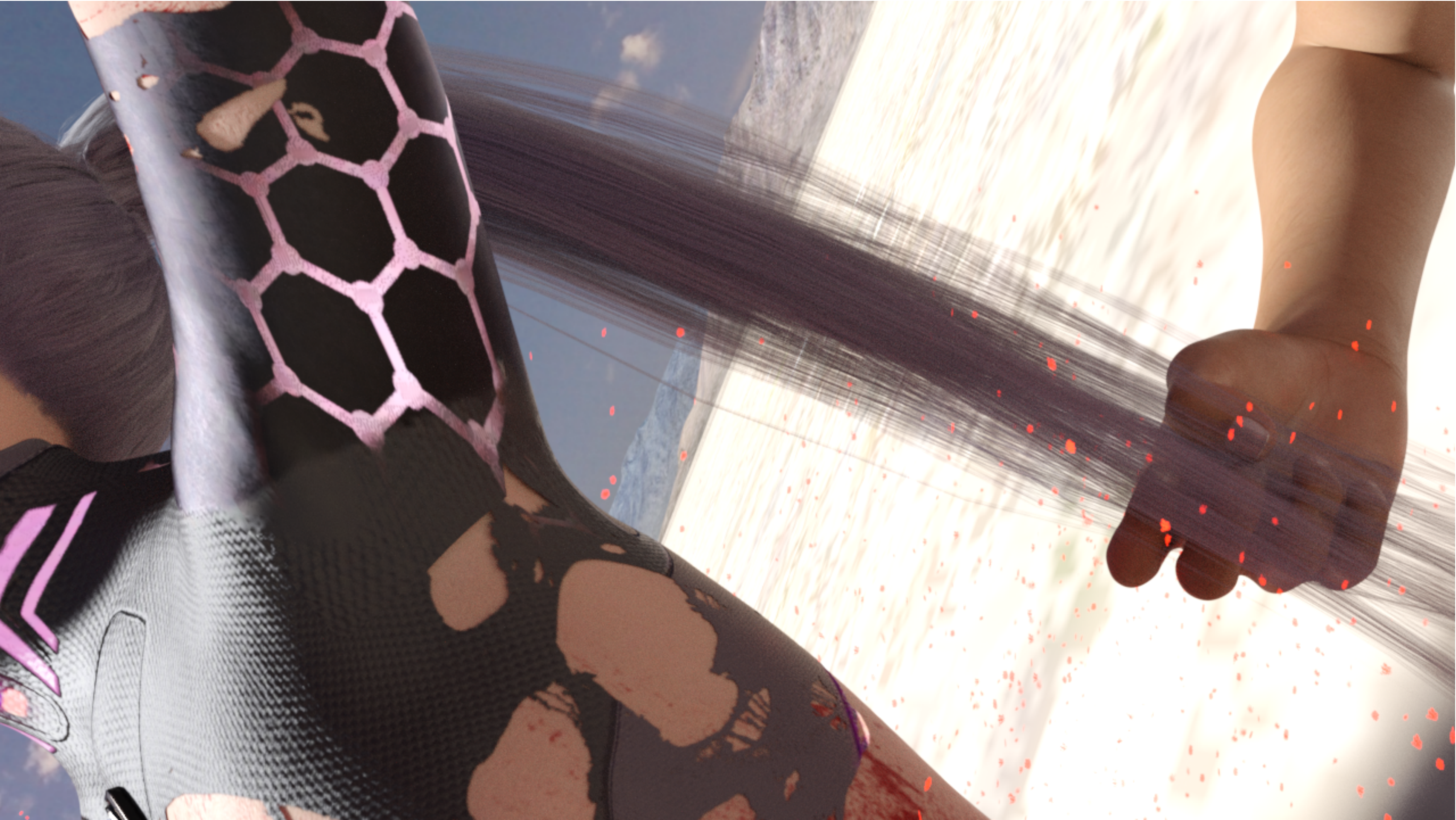
『だからこそ、対応なんだよ、すまないね』
(……壊れて…消える…もうすぐ………)
娘が完全に意識を手放し、しばらくした後…



「…………っ……………」

男に髪をつかまれ、目を覚ます

「外側の甲冑が消えましたぜ。こいつは、生きているようです」



「それはよかった！ とても心配したんだよ」

「…………っ……あ…………」

「直接、声を聞けて嬉しいよ。さて…」



「我らに協力してくれるかな？」

朧げな意識下で、娘は、微かに首を横に振る

「ひひ…はははは！！ 頭領、約束ですぜ。次は俺達だ」



「あああっ！」
男たちによる新たな拷問が、はじまった

二章 完



【製作サークル名】

ざこきやら堂

https://www.dlsite.com/maniia/circle/profile/=maker_id/RG48158.html

2021年11月発売